

令和4年度 第2回社会教育委員会 会議録					
開催期日	令和5年1月25日（水） 午前9時30分～10時40分				
開催場所	全員協議会室（6階）				
出席状況	委員10名中10名 事務局10名				
傍聴人状況	0名				
主な議題	（１）令和4年度事業中間報告について				
	（２）その他				
席次番号	委員氏名	摘要	席次番号	委員氏名	摘要
1	石田 隆博	㊟・欠	6	竹内 嘉洋	㊟・欠
2	小林 佳志子	㊟・欠	7	山田 廣美	㊟・欠
3	古橋 立哉	㊟・欠	8	篠宮 尚	㊟・欠
4	勝部 武	㊟・欠	9	浦野 和彦	㊟・欠
5	伊地知 幸子	㊟・欠	10	石井 常子	㊟・欠
事務局	梅澤 十三男	生涯学習部長	事務局	犬塚 真由子	生涯学習課生涯学習係長
事務局	羽ヶ崎 紀子	生涯学習部副部長兼青少年課長	事務局	森島 啓介	青少年課企画係長
事務局	大村 和男	生涯学習課長	事務局	石井 広伸	青少年課事業係長
事務局	室伏 延人	生涯学習課北公民館主任社会教育主事	事務局	大輪 あけみ	生涯学習課社会教育指導員
事務局	岩崎 和行	青少年課専門指導員	事務局	小玉 麻未	生涯学習課主任

会 議 名		令和4年度 第2回社会教育委員会
議 事	事務局	1. 開 会 (司会進行:小玉主任)
		2. 委員長あいさつ
		3. 教育長あいさつ
		4. 議事(議長:石田委員長)
	委員	(1)令和4年度事業中間報告について (資料1-1、1-2、1-3、2-1、2-2参照) *資料1-1、1-2、1-3、2-1、2-2を説明。 生涯学習課(大村課長) 生涯学習課北公民館(室伏主任社会教育主事) 青少年課(羽ヶ崎課長)
		【質疑等】
		新型コロナウイルスの感染拡大の影響が長引いた関係で、いろいろな事業が実施できず残念に思う。春から5類に移行するという話が出ているので、子どもたちや高齢者など多くの人々が事業に参加できるようになると良いと思う。
		教育相談室に勤務をしているが、適応指導教室の体験活動のようなものもかなり制限されている状況である。そのような中、あつまれみさとの子事業の中で実施したプログラミング教室や陶芸教室を子供たちはとても楽しみ参加したという話を耳にした。体験を通して学ぶことはたくさんあるため、今後ともこのような事業を継続してもらいたい。
		PTA連合会、親の学習にかかわっている。コロナの影響がある中で、なかなか行事ができない状況であると、人との関わりが薄まってしまふことには心配がある。そのような中でも家庭教育講演会や親の学習も開催できるようになってきている。今後も力を入れて進めていければと考えている。5類になると活動できることも増えていくと思うが、以前と全く同じようにはならないと考えている。人との関わりは大事にしていきたい。
		赤ちゃんひろばで活動している。コロナ禍になってから、人との関わりは本当に少なくなってしまった。目と目を合わせて会話をするとか、肌と肌が触れ合うことは、3才以下のお子さんたちは経験が少なくなってしまった。そういったことを心配しながら関わっている。 今回社会教育委員会に参加できてうれしく思う。コロナ禍の中で実施できなかった事業がある中で、また新しい事業を検討して実施している話も聞くことができた。春から状況が変わってくると思うので、推進していただければと思う。また今回の中間報告を聞き、市が様々な事業を行っていることがわかった。もっと多くの人々にこういった事業があることを知っていただいて、より多くの人々に参加いただけるよう広報活動をしていただければと思う。
		コロナ禍となり3年が経った。その中で、ICTの活用など工夫され活動を継続されたり、新しい手法を検討されていることがわかった。人との触れ合いにより育む社会教育について学ばせていただいた。 日々看護学生を育てていく中でも、様々なICTを用いた方法があるが、援助職者として成長する上では、人と関わり合うことは重要と考えている。また、看護学生も生涯学習者として、生涯発達し続け学び続ける人として私たちも頑張っている。三郷市の皆様と実習やその他のところで関わりを持たせていただきながら何か協力できることがあればと考えている。 本校は医療人の育成を行っているが、保健・医療・福祉は変革期にある。医療人を育てるだけでなく、保健・医療・福祉のトータルケアができるように教育を行っている中で、昨年11月にはららぽーとの協力をいただきオレンジボン運動に関する啓発ボランティアなども行った。引き続きよろしくお願ひしたい。

会 議 名	令和4年度 第2回社会教育委員会
委員	低年齢のお子さんの保護者の方で、コロナによって親御さんが幼稚園、保育園小学校などで子どもがどのように過ごしているか見る機会が減っているとの声を聞くことがある。また、親御さん同士の交流の機会も減っている影響から、「わが家の子どもとの関わりがこれでよいか」「家庭教育がこれでよいか」と考えることも多く、そういった情報に触れる機会が減っていると聞いている。子どもの豊かな教育や社会性の育ちという点で、保護者の多忙化や価値観の多様化のなかで、（保護者の間での家庭教育の認知度の）差が激しくなっている。保護者への啓発を目的とした事業や、街頭での啓発事業はありがたい機会だと感じる。 青少年を対象とした事業に関連して、学校にいて感じるのは寂しさを感じているお子さんが目立っていることである。SNSやネット等であったり、大人に目をかけてもらえていないような状況の中で、自分なりに一生懸命生きている中で、目立ってしまっている子がいる状況である。 どういった子どもに光を当てていくかという中で、機会があれば警察の方との情報交換などを行うと、広がりが出てくるかなと思う。
委員	高校教育に携わっているが、地域とつながり、地域に根差した学校として、地域に愛される高校になるために様々に取り組んでいる。 一方で高校教育においてはこれからの学校教育の中で個別最適な学び、あるいは協働的な学びが掲げられていることがあり、高校としても多くの課題を抱えていたり、いろんな状況がある中で、子どもたちにも一人ひとりに適した学びを提供していきたいとも考えている。 その中で、可能であれば次の3点についてご教示いただきたい。1点目は、日本語を母語としない小・中学生児童生徒の数字のようなものをお示しいただけるか。ざっくりとしたものでも構わない。既に三郷高校にもそのような子どもたちが入学してきており、その子たちに向けて県教委との協働事業で、日本語指導のための外部人材に定期的にお越しいただき、支援をしていただいている状況がある。今後増えることも予想しているため、このあたりの数字があれば教えていただければと思う。 2点目は、不登校傾向の児童・生徒の数。これについても可能な範囲内で何か情報提供いただきたいと考えている。 3点目は、これについても少し難しいかとは思いますが、高校生になるとヤングケアラーの問題も家庭で抱えている子も出てくる。通いたいけれども家庭の事情でなかなか通えない子もいる。義務教育ではなく、全日制であるため、出席して初めて単位の履修や習得になってくる。現状では、オンライン授業での出席をもって「出席扱い」にできないことから、そのような子たちにも支援の手立てがないか、学校としても苦悩しているところもある。 何か少しでも参考になる情報をいただければ幸いである。
事務局	ご質問があった点については、この場で情報提供することは難しい。内容としては、学校教育の分野の所管になるため、担当部署に確認して可能な範囲内で後日情報提供をさせていただく。 3点目のヤングケアラーの問題につきましては、生涯学習課において人権教育を担当している関係で、テーマとして三郷市人権推進協議会の中でも、ヤングケアラーの問題は必ず議題に上がってくる内容であり、我々としても注目をしているテーマである。2月8日に開催する人権教育講演会の中でもヤングケアラーを取り上げて、PTAの方々を中心に参加いただきながら、皆様とともに考えていこうと思っている次第である。実際に対策というところでは、まだ具体になっておらず、これから考えていく段階である。 <u>委員からの質問に対する回答</u> ご質問の3点につきましては、子どもを取り巻く課題として認識をしており、学校現場においては個々のケースに応じて担任をはじめ管理職やスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー等と連携して組織的に対応をし、教育相談や関係機関につなげている状況でございます。 具体的な人数については、個人の特定につながる場合もあるため、公表を差し控えさせていただいております。ご理解いただければと思います。

会 議 名	令和4年度 第2回社会教育委員会
委員	赤ちゃんから高齢者までを対象した事業があり、コロナ禍でも工夫しながら実施されていることがわかった。今年度もコロナ禍が続くとは思いますが、引き続き工夫し事業を実施していただければと思う。
委員	埼玉県葛都市社会教育振興会でも、いろいろな行政の方々が、公共施設の収容人数であつたりとか地域性であつたりなどを理由に大変苦労されているとお話が あった。三郷市においてもいろいろな活動が制限される中で、できる範囲内で実施されたのかと思う。元には戻らないとは思いますが、今後も実施できるものから 勇気を出して皆さんと一緒にやっていきたいと思う。 地域の中学生・高校生からコロナ禍において「活動する場が少なくなってしまった」 などの声も聞こえた。地域の公園ではボールの使用が許可されていなかったり、 サッカーやキャッチボールを行う場所がないとの声もあった。事業を続けていく ことと同時に、子どもたちに多目的で無償で活動できる場を行政としても 与えていただけるような取り組みをしていただけるとありがたい。
事務局	(2)その他（犬塚係長） ・当日追加配布物について 社教連会報を配布した。 ・令和5年度社会教育委員会関係の日程予定について（情報提供） 現時点での予定を情報提供した。
	【質疑等】
委員	各委員から意見をいただいた。社会教育の中で、人と関わることは改めて大切 だと感じた。コロナ禍において、人間関係が希薄になってきている。また、SNS が発達した中で匿名であることに対する危険性もあると感じることがある。人 と関わることの煩わしさ、その中での調整力を養っていくのがやはり一番良い 方法なのかと感じた次第である。 保育所等では子どもをいじめることが問題となっている。特に言葉が話せない 低年齢児（0～2歳児）に対し、いたずら心かもしれないが愛情のないことをし てしまって事件になってしまう、そういった話を聞くと心が痛くなり、自分の 襟を正すようにしている。 様々なことに気を付けながら、こういった事業を通じて、人との関わりを増やし ていただければと思う。
	5. 閉会（竹内副委員長）
	以上